



「生きている」実感



600m走チャレンジランキング大会に向けて

今、学校では、来週行われる600m走チャレンジランキング大会に向けて、子どもたちが、自分なりの目標に向かって業間運動や体育の授業で練習に励んでいます。

数年前の福島民友新聞の編集日記にこんな話が載っていました。

◆大腸がんを克服した陸上競技指導者の金哲彦さんは、著書『走る意味 命を救うランニング』（講談社現代新書）に「ガンには闘う相手である“外敵”や“老い”が存在せず、闘う相手はあくまで自分自身と治療の苦痛」と記す。

◆そして『走る』ことは、『生』を実感させてくれます。だから、走る意味は生きる意味にも通じているのだと思います」と、治療後に出場したフルマラソンなどを振り返りながら冷静に自分自身を見つめる。

◆がん発祥の要因の一つにストレスによる免疫力低下がある。金さんは走ることでそれをためず、再発を防いでいるのだろう。

子どもたちに「生」を実感してほしい

子どもたちには、学校生活の中で、「生きている」という実感をもってもらいたいと、強く願っています。何かに本気で取り組んだり、熱中したり、何かを思いっきり楽しんだりすることで、「生」への実感や喜びを味わうことができるのだと思います。

練習で600mの距離を一生懸命に走った子どもたちは、自分の心臓の音がバクバク聞こえたり、息が上がったり、汗をかいたり、自分が生きていることを感じたのではないかと思います。（下の写真は、昨日の業間運動で走る3・4年生の様子です。）



「学習発表会」のご感想をお寄せいただきありがとうございます！



今年度の発表会は、全学年で“ドリーム & チャレンジ”を感じることができ、最初から最後まで、ミュージカルや演奏会を見ているようでした。とても楽しく見ることができました。うちの子は6年生。小学校生活最後の学習発表会。みんなの前で発表すること、みんなと一緒にやること、覚えることが苦手な我が子。周りのお友達に励ましてもらいながら練習に取り組み、そのおかげで自信がついたのか、家でも自然と練習する姿が！！ 学習発表会当日は恥ずかしそうにしながらもライラックのダンス、野に咲く花のようにの歌、情熱大陸の合奏、全て自信満々で発表する姿に涙がこぼれ、とても嬉しい気持ちになりました。

これからの人生において、いつまでも“ドリーム & チャレンジ”を大事にしてほしいと思います。結果が全てではなく、夢に向かってチャレンジして、過程が大事なことがいつかわかってくれることと願っています。

大人になると、自分の限界を決めてしまいがちです。私も“ドリーム & チャレンジ”の合言葉を胸に、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。（6年生の保護者様より）



（裏面に暗唱チャレンジ10月下旬の合格者の写真を掲載したのでご覧ください。『出発』の合格者は139名となりました！）

暗唱チャレンジ(10月下旬)

